

復活節第5主日・C年 (16.4.24)

最後の説教の準備に当たって

今日の福音は、復活節の間、続けて朗読されるヨハネ福音書からとられておりますが、今日の個所は、イエスが最後の説教を語られる導入に成っていると云えましょう。

それは、最後の晩餐の席上、何と弟子たちの足を洗うという驚くべき模範を示された^{のち}後に、弟子たちに切々語られた場面にほかなりません。

「よくよくあなた方に言うておく。

僕はその主人に^{まさ}勝らず、

遣わされた者は遣わした者に^{まさ}勝らない。

このことが分かっているなら、

そして、それを実行するなら、あなた方は幸いである。

・・・

よくよくあなた方に言うておく。

わたしが遣わす者を受け入れる人は、

わたしを受け入れるのであり、

わたしを受け入れる人は、わたしをお遣わしになった方を

受け入れるのである。」(ヨハネ 13.16-20)

イエスは、弟子たちをこの世に派遣することを念頭に置いて、弟子たちの共同体すなわち教会のあり方の基本を、遺言として語ろうとしておられたのではないのでしょうか。

ところで弟子の中から裏切り者がでることをも厳かに予告なされたのであります。

『よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている。』・・・『わたしがパンを一切れ浸して与える者が、それである。』それから、パンを一切れ浸して手に取り、イスカリオテのシモンの子ユダにお与えになった。ユダがそのパン切れを受け取ると、その時、サタンがユダの中に入った。そこで、イエスはユダに仰せになった、『しようとしていることを、今すぐしなさい。』・・・ユダはそのパン切れを受け取ると、すぐに出ていった。夜であった。」(同上 13.21b-30)

此処で言われている夜とは、サタンに捕えられたユダが、まさに闇の世界へと入って行ったことの象徴に他なりません。

とにかく、裏切り者が、いなくなった弟子たちの共同体に対して今日の福音が宣言された場面に展開して行きます。そこで、イエスはまずご自分が受けようとなさっておられる栄光について厳かに宣言なさいます。

「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。神が人の子によって栄光をお受けになるのであれば、神もご自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも。すぐにお与えになる。」

実は、ヨハネ福音において栄光が語られるのは、すでにニコデモとの対話の中で、つぎのように話されたときです。

「モーセが荒れ野で蛇を上げたように、
人の子も上げられなければならない。

それは、信じる者がみな、

人の子によって永遠のいのちを得るためである。」(同上 3. 14-15)

まさに、ヨハネ独特な言い回しでは、十字架に上げられることと、天に上げられるつまり復活させられることとは、同じ出来事にほかなりません。

ですから、十字架上で殺される一週間前エルサレムに入城なさったときにも、次のように語られました。

『人の子が栄光を受ける時が来た。

よくよくあなたがたに言うておく。

もし、一粒の麦が地に落ちて死ななければ、

それは一粒のままである。

しかし、死ねば、豊かな実を結ぶ。

そして、わたしが地上から引き上げられるとき、

すべての人をわたしのもとに引き寄せる。』(同上 12. 23-32)

ですから、ヨハネは、今日の福音においてもユダが広間から出て行った時、つまり十字架に上げられる時が始まったので、すぐさま次のように宣言なさったのであります。

「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。」と。

共同体の新しい掟を与える

続いて、イエスは、共同体を育てるための新しい掟を与えてくださいました。「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

この新しい愛の掟こそ、私たちの教会共同体を育て上げる根本原理にほかなりません。しかもイエスによって示された新しさをしっかり身に着けることが肝心なのであります。確かに、すでに旧約時代から与えられていた愛の掟は、イエスご自身も次のように再確認なさいました。

『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』（申命記 6.5 参照）これがいちばん重要な掟である。第二もこれに似ている。

『隣人をあなた自身のように愛しなさい。』（レビ記 19. 18 参照）」（マタイ 22. 37-38）

けれども、イエスは、あえて新しい掟であると宣言され、その説明として、わたしがあなたがたを愛したようにとご自分を模範にするようにと念を押されました。ですから、イエスは他の福音で、この愛の掟の^{ほか}新しさを、次のような具体的なお命令によって説明しておられます。

「しかし、わたしは耳を傾けているあなた方に言う。敵を愛し、あなた方を憎む者に善を行いなさい。呪う者を祝福し、あなたを侮辱する者のために祈りなさい。あなたの頬を打つ者に、もう一方の頬をも向けなさい。」（ルカ 6. 27-29a）

ちなみにパウロは、共同体を育てるための具体的な勧めを、次のように手紙にしたためております。

「愛に基づいて真理を語たり、あらゆる面^{かしら}で頭であるキリストによって、体全体が成長していきます。このキリストによって、体全体は、必要なものをもたらす互いのあらゆる触れ合いを通して、また、各部分の役割に従った働きに応じて一つに組合され、結び合わされて大きく成長し、愛に基づいて自分を築きあげていくのです。」（エフェソ 4. 15-16）

今週もまた、派遣されるそれぞれの場で愛の実践に励むことができるように共に祈りましょう。